

他者視線方向知覚における物体バイアス — 頭部方向における一般性 —

Object bias of perceived gaze direction -Generality in head orientation-

永井健之、喜多伸一

Takeyuki NAGAI, Shinichi KITA

E-mail : nagai@stu.kobe-u.ac.jp

和文要旨

他者の顔画像を見て知覚された視線方向は画像内の物体の方向に偏ることが報告されている。この物体バイアスは、従来、頭部方向が正面である画像に対してのみ検討されてきた。それに対し、本研究では頭部方向が正面でない画像を用いて、このバイアスに対する頭部方向の影響を調べた。画像人物が見つめていると評定される水平方向の直線上の地点に、被験者がマウスカーソルを合わせクリックで反応した地点と、画像人物の中心線の水平座標との距離を、他者視線方向の評定値とした。頭部方向に関し4水準、物体の有無や位置について6水準を設定し、頭部方向および物体の状態が画像人物の視線方向の評定値に及ぼす影響を調べた。実験の結果、上記の物体バイアスは4水準の頭部方向条件の全てにおいて認められた。このことから、他者視線方向知覚における物体バイアスには、頭部方向が正面方向以外でも生起する一般性があることが分かった。

キーワード：視線知覚、頭部方向、物体バイアス

Keywords : gaze perception, head orientation, object bias

1. 緒言

他者の近くに存在する物体は他者視線方向知覚に影響を与える。Lobmaierらは、正対する他者の視線方向が、その他者の近くに存在する物体に近づく方向に偏って知覚されると主張した [1]。この研究において、被験者は画像人物が見つめていると知覚される地点をマウスクリックによって回答した。その際、物体（10ペンス硬貨）を、画像人物が実際に見つめている地点に設置したとき（物体凝視条件）、画像人物が実際に見つめている地点よりも画像人物側に設置したとき（内側条件）、逆に画像人物の反対側に設置したとき（外側条件）を比較した。実験の結果、内側条件では、物体を設置しなかった統制条件に比べて、画像人物の視線方向の評定が、物体が存在する方向に偏っていた。本研究ではLobmaierら [1] が確

認した、評定される他者視線方向が物体の方向に偏る現象を「他者視線方向知覚における物体バイアス」と表現することにする。

他者視線方向知覚には、その他者の頭部方向も影響を与えることが示されている [2]。そのため、他者視線方向知覚における物体バイアスにも頭部方向が影響する可能性が考えられる。しかしLobmaierら [1] は頭部方向が被験者に対して正面方向を向いている場合以外でこのバイアスが認められることを示しておらず、このバイアスが他者の頭部方向に依存せず生起するかどうかについては明らかになっていない。そのため、他者視線方向知覚における物体バイアスは、頭部方向が正面方向である場合のみに生起する、一般性に欠ける現象である可能性が残される。そこで本研究では他者視線方向知覚における物体バイアスが、他